綺麗な響きのために

～実用的な純正律の手引き～

和音が響く音程について

- 長三和音(dur)が良い響きをするための音程は以下の通り
  ※音階はCdurの場合
  - 根音　（ド）…基準
  - 第３音（ミ）…平均律から14セント低め
  - 第５音（ソ）…平均律から2セント高め

  ※セントは半音の1/100
- ３音をちょっと低めで取るのがポイント！
  ５音の少し高めは誤差程度。平均律で取れていれば大体OK。
- 短三和音(moll)の場合は、第３音は16セント高め…だけど、
  合っていても良い響きが鳴りにくいので難しい。

純正律へのいざない

- だったら、曲中の全部の和音を調べてdurの３音を下げる？
  ⇒ナンセンス
  　解決方法は「純正律」
- とりあえず「純正律」の音程で弾いておけば、
  その調での<u>主要な和音は上手く決まる</u>！！

純正律の取り方

※１行目の音名は「移動ド」。調の主音をドとする。

	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ
純正律	0	+4	-14	-2	+2	-16	-12	0	+4
和音Ⅰ	0(0)		-14(-14)		+2(+2)				
和音Ⅳ				-2(0)		-16(-14)		0(+2)	
和音Ⅴ					+2(0)		-12(-14)		+4(+2)

※数字は平均律との差。括弧内は和音の根音からの相対的な音程。いずれも単位はセント。

- 純正律の音程は上記の通り。
- 部分転調や借用和音などを無視して、調号の音のみで演奏した場合、勝手に和音が決まる音程になっている。
  例）和音Ⅳだと根音ファに対して３音が-14、５音が+2
  ⇒いい響きがする音程間隔になっている

純正律の取り方（簡易版）

※１行目の音名は「移動ド」。調の主音をドとする。

	ド	レ	ミ	ファ	ソ	ラ	シ	ド	レ
純正律（簡易）			**下げる↓**			**下げる↓**	**下げる↓**		
和音Ⅰ	根音		**３音↓**		５音				
和音Ⅳ				根音		**３音↓**		５音	
和音Ⅴ					根音		**３音↓**		５音

- C-durの場合…
  ミ、ラ、シに関して、とりあえずちょっと下げる。
  後は周りの音を聴いて馴染ませる
- 他の調でも考え方は同じ。
  調の主音に対して、３音、６音、７音をちょっと下げる。

純正律の問題点①

- 純正律も完璧では無い。いくつか<u>仕組み上の問題</u>がある。
  ① 主要和音以外は決まらない場合がある
  例）レ・ファ・ラの和音は上手く決まらない。よく出てくるのに…
  ② 転調すると音程のずらし方の基準音が変わる
  例）C-durなら、ミ・ラ・シを下げている
  ⇒転調してG-durになると、シ・ミ・ ♯ファを下げる
  ③ ４和音以上には対応しない
  例）C7の場合、ド・ミ・ソ・♭シ
  ⇒ シの音程は？（完全にはめるなら7thは31セント低め）

純正律の問題点②

- 「導音は高め」という音程の取り方と矛盾する
  - メロディーの導音（シの音）は、ドに向かう力が強いので、
    特にドに向かうときに少し上げて取る方が美しいとされる
    ⇒純正律だとシの音は低め、導音と考えると高め…。どうする？
    ⇒シに関しては、以下の考え方が好ましいと思われます
    ・メロディーとして浮き立たせる場合は高め
    ・和音として溶け込ます場合は低め

実用的な純正律（まとめ）

- 前提として、それなりに良い音程で常に演奏する
  ※これが既に難しい…
- 調の主音(ドとする)に対して、ミ、ラ、シをちょっと下げて、
  後は周りの音を聴いて馴染ませる
  特にdurの和音は響かせやすい。mollはひとまず諦める。
- 転調に応じて、臨機応変に下げる音は変える
- メロディーを浮き立たせる場合は、導音（シ）は上げる
  和音よりも音楽性を優先する判断。

おまけ　限定進行音による音程判断

- 機能和声学の上で「限定進行音」が存在するので、
  よくあるパターンを察知して、和音内の自分の役割を判断できる。
  （古典～ロマン派の楽曲では概ね通用する）
  ※以下はどちらも主音をドとする「移動ド」で記載
  　属７の和音から主和音への解決の和音（CdurならG7→C）
- ファ→ミ
  ファ…７音　ちょっと低め、控え目に演奏
  ミ　…３音　ちょっと低め、やや控え目に演奏
- シ→ド
  シ　…３音　ちょっと低め、控え目に演奏（溶け込ませる場合）
  ド　…根音　平均律の音程で、しっかり演奏